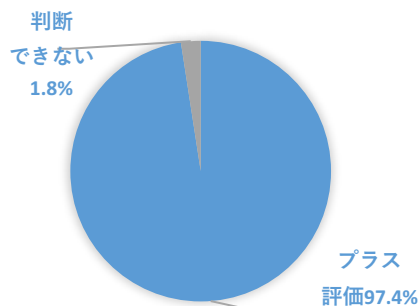


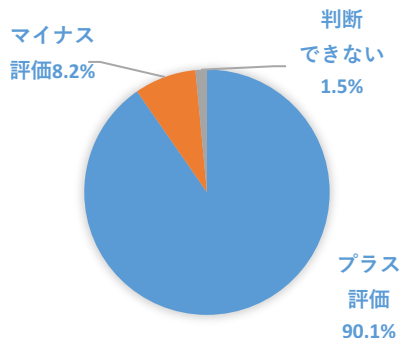
Q1 学校を楽しんでいるか。



・全体として肯定的評価がほとんどであった。引き続き、児童生徒が、「楽しい」「学校へ行きたい」と思える学校となるよう努めていく。

評価 ☒

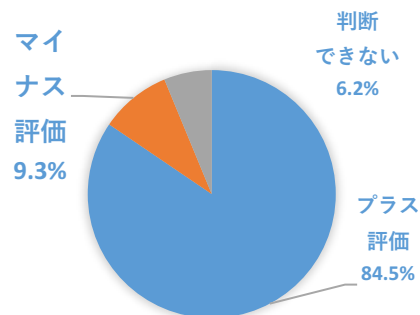
Q2 学校の情報をわかりやすく…。



・多くの保護者が、肯定的意見だが、教職員の10%以上が必要な情報の発信が不十分と感じている。本年度はHPを充実させることが不十分。学校の取組を積極的に家庭へ伝えるとともに、連絡等を迅速に、便利に使えるようにしていく必要がある。

評価 ☒

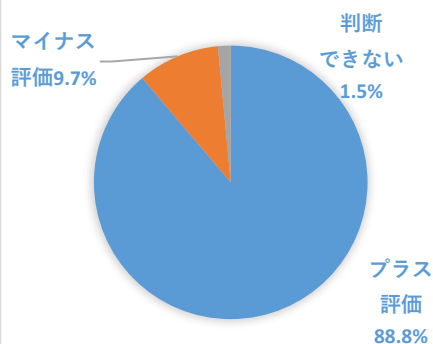
Q3 わかる授業、教育課程の改善…



・学校の指導に関して、関係者評価がマイナス評価と判断できないを合わせると20%強。保護者との連携が不十分という意見多い。また、教育課程の改善という視点での教職員のマイナス評価が、昨年度より20ポイント下がり、取組が浸透しつつある。

評価 ☐

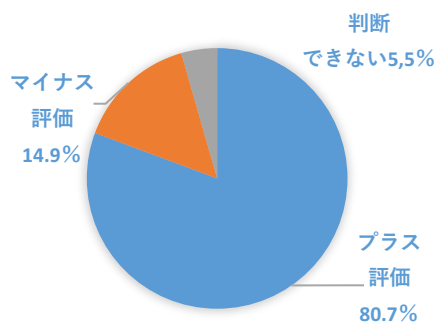
Q4 学習のねらいや評価、単元・評価計



・学習のねらいや評価について、保護者は肯定的意見が多かったが、教員は、単元を見通した目標設定や学習評価の取組に対してのマイナス評価が10%を越えている。取組の継続が必要である。

評価 ☐

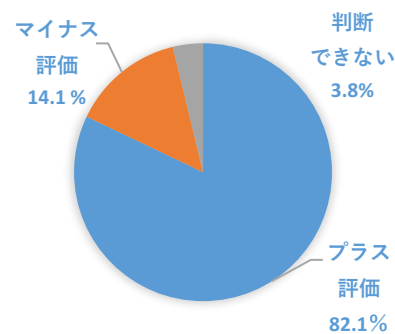
Q5 自立活動の指導について



・マイナス評価と判断できないを合わせると15%近い。特に、学校生活全体を通して行う自立活動の指導に関して、教員のマイナス評価が30%を超えている。引き続き自立活動の指導についての専門性を高め、学校生活全体の中で配慮した指導ができるようにしていく必要がある。

評価 ☐

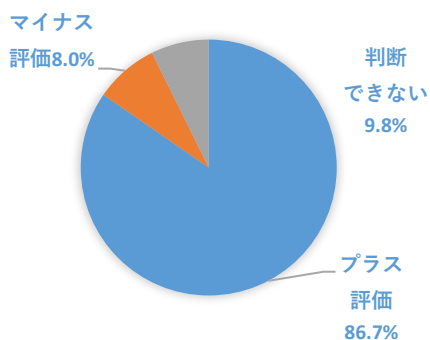
Q6 ICT活用の推進



・これまでもICT機器は授業の中で活用しているが、新しい教育ツールを使えるようにすることは、まだ、十分とは言えない状況。今後も児童生徒の実態によって、活用する機器の検討や教員が活用できる力を高めることに取り組む必要がある。

評価 ☐

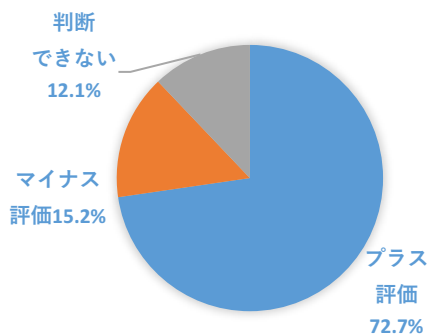
Q8 療育福祉センターとの連携



・連携についてのマイナス評価は10%未満。しかし、保護者、関係者、教職員とも、マイナス評価と判断できないを合わせると10%を超えており、連携内容や取組の共有が不足していると考えられる。連携の取組について、学校だより等で発信していく必要がある。

評価 ☐

Q9 働き方改革



・昨年度と比べると、プラス評価が30ポイント以上増加。ワークライフバランスへの教職員の意識が高まってきた。特に会議の精選や時間設定について、肯定的意見が多かった。引き続き、教職員全員で適切な役割分担をしながら、働きがい、やりがいのある職場づくりに努めていく。

評価 ☐ *◆

(評価基準)

- ◎ - 評価10%未満 + 評価90%以上
- - 評価20%未満
- △ - 評価25%未満
- × - 評価30%未満

*■ 教職員の判断できない10%以上

*◆ 保護者の判断できない10%以上

